「世界の広場」第３８号の発刊に寄せて

国際理解教育研究会　会長　富澤　厚
（高崎市立滝川小学校　校長）

群馬県国際理解教育研究会発行の「世界の広場」は３８号となりました。これも関係された皆さんの深いご理解と先輩諸氏の努力の賜物であると心より感謝申し上げます。

「世界の広場　第１号」（昭和５３年度発行）を改めて読み返してみました。冒頭に「本県の海外子女教育は、昭和４１年カルカタ日本人学校の新設に伴い、３名の教員が派遣されたことに始まる」と書かれています。海外子女教育研究会（平成４年に国際理解教育研究会と改名）として発足したのは昭和５２年でした。最初に派遣された昭和４１年から研究会の立ち上げまで１１年、「世界の広場　第１号」の発行まで１２年という年月が流れています。この間、派遣された先生方による組織も情報もなく、当時派遣された方々は大変な苦労があったことと思います。この冊子の発行に関与された先生方は「少しでも現場の教育に生かすことができたら・・」という思いで発行されたと記録されています。会則を制定し、組織を作り、会誌を作成する作業は並大抵ではなかったのではないでしょうか。改めて本会の歴史と諸先輩方の功績を感じました。

さて、平成３０年現在、群馬県からの派遣者数（会員数）は３６９名となっております。海外で暮らす児童生徒は平成２７年４月１５日現在、約７．８万人と、増加傾向にあります。これらの子供たちに国内と同等の教育を行うための施設は日本人学校として、昭和３１年（1956 年）にタイのバンコクに設置されて以来、平成２７年４月１５日現在では、世界５０カ国・１地域に８９校が設置されており、約２万１千人が学んでいます。また、補習授業校は昭和 33（1958 年）年に米国のワシントンに設立されて以来、平成２７年４月１５日現在では、世界５２カ国・１地域に２０５校が設置されており、約２万人が学んでいます。

本県からも毎年数名の先生方が派遣され、それぞれの国に暮らす子供たちのためにご苦労いただいております。そして、３年間の勤務を終え、帰国後は群馬県国際理解教育研究会の役員として本会の運営に携わっていただいております。この会はこれらの先生方の協力によって成り立っております。在外教育施設での教育活動は困難がたくさんありますが、同時に充実感も得られます。今後も皆さんで協力しながら派遣によって得た貴重な体験をもとにそれぞれの学校で国際理解教育を推進し、グローバルなものの見方や考え方を教育現場に取り入れ、群馬県の教育をより高めるために力を発揮してほしいと思っています。今後もこの会が帰国された先生方のよりどころとなり、末永く活動が継続されることを願っています。

この冊子にまとめられている内容は、今年度帰国された先生方の在外教育施設での実践の記録と本会の活動の記録です。また、派遣中の先生方からの記事なども掲載されています。

今年度もこうして冊子が作成されることを大変喜ばしく思っています。皆さんに本冊子を手にとっていただき、国際理解教育への関心を高めていただければ幸いです。

最後に、本研究会の活動に温かいご理解とご協力をいただきました群馬県教育員会学校人事課の皆様、関係各位に心より感謝申し上げます。また、ご寄稿くださいました皆様にも感謝申し上げます。今後ともよろしくお願いいたします。

新たに派遣される先生方は夢や希望抱いて、そして群馬に帰国された先生方は、これまでの経験を今後の教育活動に役立てていきましょう。